

作型 早い時期から収穫するには、購入苗をトンネル栽培すると良い。日光とうがらしやスピノーザの緑果はししとうとして、赤くなったらとうがらしとして利用できる。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
春 植 え					△	■	■	■	■	■	■	■	ししとう、伏見甘長、日光とうがらし、スピノーザ

△：植え付け ■：収穫

畑の準備・定植

土づくり	a当たり
堆肥	400kg
セルカ(有機石灰)	10~15kg
植え付け1ヶ月前に土と良く混合	
元肥	a当たり
醗酵鶏糞	50kg
野菜専用肥料	5kg
畝立時施用	

- 畝幅160cm
- 株間80cm(2条植、千鳥植、条間80cm)
- 畝高40cm

植え付け

- 5月上中旬頃暖かくなってから植え付ける。(トンネル被覆を行う時は4月中旬頃から植え付ける。)
- ポリマルチは、降雨後、土壌水分の多い時に行う。(黒色は雑草防止、シルバーはアブラムシの飛来防止の効果がある。)

敷きわら・灌水

- 梅雨明け後、敷きわらをする。
- 高温乾燥が続くと、夕方に灌水する。

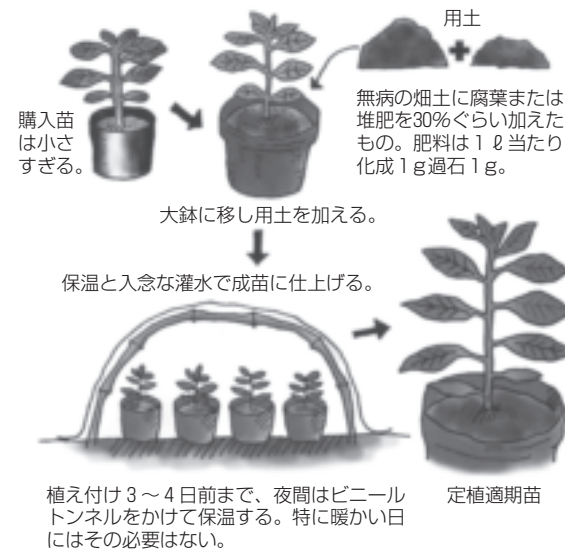


防除

病害虫名	耕種防除	薬剤防除
うどんこ病	通風を良くする 過乾を避ける 窒素の多施用を避ける	
アブラムシ	光反射フィルムマルチ ならびにテープを張る	モスピラン水溶剤 8000倍 7日前まで2回

育苗

- 購入苗が小さい時は大鉢に移し定植に適した苗に育てる。(本葉7~8枚)



整枝・支柱立

- 一番花(果)の上2本の枝と主枝を残し、盃状に仕立てる。
- 生育が進み込み合ってきたら、枝を間引き、日が良く当たるようにする。

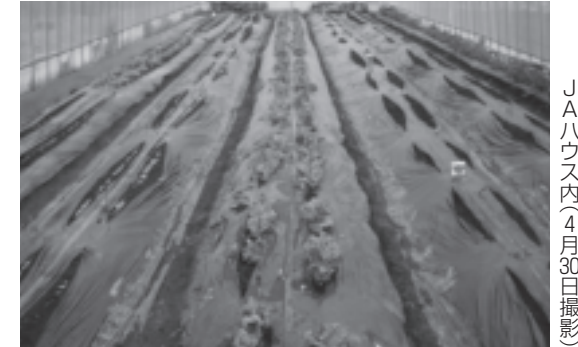
収穫

- 熟しすぎると果実が赤くなってしまうので、大きくなったものから早目に収穫する。



おいしくて育てやすい野菜を紹介し、直売所等への出荷に向けてより多くの組合員の皆様が栽培に取り組んでいただくこと、また営農指導員の技術の向上をめざして「提案型営農相談」の一環として始めたJA直営ハウスでの栽培も、今年で3年目を迎えました。

いよいよ今年からは、このハウスで試験栽培した品目の中から3品目を選定して生産者に栽培していただき、消費者ニーズの調査を行っていきます。

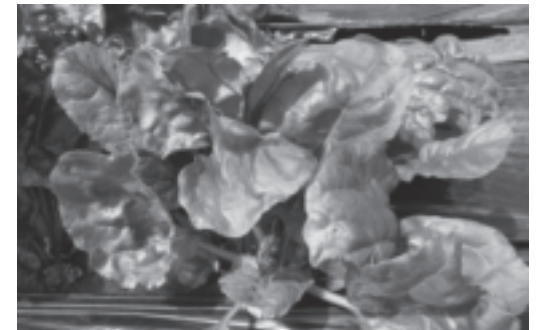


JAハウス内(4月30日撮影)

今年度は、スイスチャード、サラダからし菜、スノースティックの3品目を選定します。

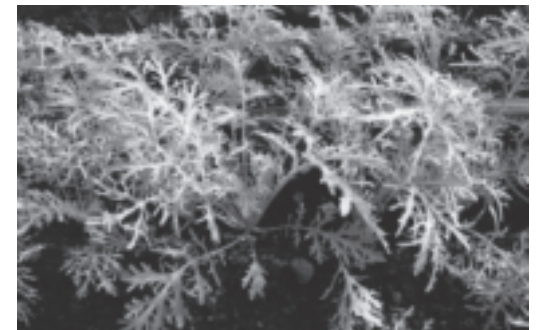
●スイスチャード

12月に播種したスイスチャードは、刈り取って収穫を行いました。今後、何度収穫できるのかを試験しています。1回刈り取ったものと2回刈り取ったものがありますが、スイスチャードは播種してから何度も収穫できるのが特徴です。温度が上昇するこの時期に何度収穫できるのか、また、食味・食感のバランスがどうなるかも調査していきます。



●サラダからし菜

サラダからし菜は3月から10月にかけて播種します。大変作りやすく、露地栽培の旬は春と秋ですが、ハウスでは周年栽培のできる野菜です。ハウスで4月下旬に播種したサラダからし菜は、現在順調に生育中です。ベビーリーフ、サラダ、漬け物など、用途に合わせた収穫を調査していきます。



●スノースティック

スノースティックの播種は、7月中旬から8月下旬にかけて行います。何度かに分けて播種する予定で、JAハリマ管内での播種はいつ頃が適しているのか等を調査します。

